

宇治市社会福祉協議会

性格及び目的

急速な高齢化・核家族化等の進行により福祉ニーズの増大とその多様化が顕著となりこれへの対応が緊急の課題となっている。また、児童、高齢者、障がい者等についても可能な限り地域社会の中で生活できる環境づくり等を推進していこうという考え方が強まっている。

こうした要求にこたえるため地域社会を基盤とする福祉サービスの総合的な取組みとして「地域福祉の推進」の中核的役割を担っている組織が市町村社会福祉協議会であり、宇治市社会福祉協議会も、市民ぐるみで民間の社会福祉について協議し、宇治市の福祉を推進している組織である。また、市民のみならず、宇治市やその他の福祉関係団体との連携を保ちながら、地域における社会福祉法人との連携・調整役としての役割に従事し、宇治市の福祉を民間の立場で効果的に運営していこうとするものである。

根拠法令等

◇社会福祉法 第109条

事業の目的

I. 住民参加による地域福祉推進を行い、福祉活動に関わる参加者層を広げる

事業の概要および現況

(1) 学区福祉委員会活動の支援 (全21学区、平成29年度以前は全22学区)

① 各学区福祉委員会の主な事業への支援

補助金名	補助内容
学区福祉委員会等事業費補助金	・事業費補助金A区分：3事業実施分(150,000円)を補助。 ・事業費補助金B区分：1事業実施分(25,000円)を補助。

② 一人暮らし高齢者などの会食・配食活動の支援

補助金名	補助内容
一人暮らし高齢者等給食サービス事業補助金	一人暮らし高齢者等への給食サービス事業実施の福祉委員会に対し、1食あたり350円を材料費の一部として補助。

③ 一人暮らし高齢者などの見守り、声かけ活動の支援

事業名	補助内容
一人暮らし高齢者等訪問事業補助金	一人暮らし高齢者等に対して、月1回以上の訪問活動、生活支援を実施している福祉委員会について、訪問時に配布する記念品等に要する経費として対象者一人あたり年間1,000円を上限に補助。

④ 学区福祉委員会補助金交付状況

(単位：円)

区分	年度				
	元	2	3	4	5
事業費	3,150,000	1,783,397	1,867,912	2,323,770	2,665,307
給食サービス事業	2,775,150	1,595,300	1,919,050	2,412,200	2,673,650

訪問活動事業	1,764,000	1,669,000	1,688,000	1,699,838	1,674,720
合計	7,689,150	5,047,697	5,474,962	6,435,808	7,013,677

⑤ 歳末たすけあい「ふれあい事業」補助金交付について

70歳以上の一人暮らし世帯等を対象にした声かけ活動に際し、見舞品やお弁当など、一人当たり上限1,000円まで（上限150人分）または、1学区福祉委員会上限130,000円（住民交流事業の場合）を補助。その他、会食会、世代交流事業も補助の対象とした。

補助金交付状況

（単位：円）

年度	元	2	3	4	5
補助金額	2,375,893	1,784,998	1,858,385	2,185,867	2,168,745

(2) 木幡学区内での住民交流拠点づくりと社協出張相談の場の検討

令和4年度に引き続き、木幡学区福祉委員会解散後の取組みとして、木幡地域の“いま”や“思い”を語り合い、共有し、学び合う懇談会を毎月18日に定例で開催した。

また、木幡学区内の住民誰でもが立ち寄り、交流や情報交換を行い、志を同じとする人同士で新たな動きや活動を生み出していききっかけづくりとなる交流拠点（居場所）の開設を第4土曜日に定め、実施した。

定例会（開催日、参加者数：事務局除く）

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① 令和5年4月18日（火） 5名 | ② 令和5年5月18日（木） 4名 |
| ③ 令和5年6月18日（日） 4名 | ④ 令和5年7月18日（火） 3名 |
| ⑤ 令和5年8月26日（土） 6名 | ⑥ 令和5年9月23日（土） 4名 |
| ⑦ 令和5年10月18日（水） 6名 | ⑧ 令和5年11月18日（土） 5名 |
| ⑨ 令和5年12月18日（月） 6名 | ⑩ 令和6年1月18日（木） 6名 |
| ⑪ 令和6年2月18日（日） 5名 | ⑫ 令和6年3月18日（月） 6名 |

居場所（開催日、参加者数）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① 令和5年4月22日（土） 23名 | ② 令和5年5月27日（土） 30名 |
| ③ 令和5年6月24日（土） 41名 | ④ 令和5年7月22日（土） 41名 |
| ⑤ 令和5年8月26日（土） 18名 | ⑥ 令和5年9月23日（土） 37名 |
| ⑦ 令和5年10月28日（土） 19名 | ⑧ 令和5年11月25日（土） 11名 |
| ⑨ 令和5年12月23日（土） 11名 | ⑩ 令和6年1月27日（土） 36名 |
| ⑪ 令和6年2月24日（土） 27名 | ⑫ 令和6年3月23日（土） 20名 |

(3) 住民主体活動への支援・協働

高齢者のみならず、小地域の地域住民による見守り活動に対して、京都府社会福祉協議会の助成金「地域ひとつなぎ事業」での財政面の支援を行った。

助成金交付状況

年度	元	2	3	4	5
区分					
団体数（団体）	22	25	24	21	22
助成金額（円）	541,500	660,000	640,000	510,000	523,000

(4) 学区福祉委員会連絡協議会への支援

学区福祉委員会連絡協議会の事務局として、代表者会議（年2回）の運営、事業支援、及び運営費助成を行った。

- ① 学区福祉委員会募集強化月間

令和6年2月1日～3月31日
 市政だより2月15日号掲載、社協だより3月15日号掲載、各学区独自の広報誌の作成、
 ポスター掲示物の配布、FMうじへの出演
 新規加入69名、退会96名

② きょうと地域福祉活動実践交流会の開催への参画

実施日 令和5年11月25日(土) 13:00～16:15
 実施場所 お茶と宇治のまち歴史公園(オンラインでの参加)
 【主催者実施場所】福知山市大江町総合会館1階
 実施目的 京都府内の地域福祉活動の実践を共有し、今後の活動に活かしていく
 参加者 15学区33名、事務局6名(うち社協実習生2名) 計39名
 内容 第11回きょうと地域福祉活動実践交流会
 【講演】「つながりづくりに楽しくチャレンジ!～みんなが主役のまち、そして輝く未来へ～」
 講師:西川 正 氏(特定非営利活動法人ハンズオン埼玉 副代表理事)
 【実践報告・意見共有】
 ①子ども食堂あいこのいえ:舞鶴市
 「居場所」としての子ども食堂～食べる喜び、つながる心～」
 ②そやなあ談義(市内全域の男性介護者の集い):綾部市
 『『そやなあ』の心で満ちる そやなあ談義』
 ③上紺屋・鍛冶町ふれあいいきいきサロン&ラジオ体操:福知山市
 「地域住民が主人公!楽しくつながる日々の暮らし」
 【各会場でのグループワーク】
 サテライト会場では、6グループに分かれてグループワーク
 【まとめ】西川 正 氏(特定非営利活動法人ハンズオン埼玉 副代表理事)

(5) ふれあいサロン事業促進

① ふれあいサロン活動費の助成と活動の支援

身近な地域での孤立を防ぎ、日々の支え合いの仲間づくりを進める目的で月1回以上開催しているグループを支援している。助成金を必要とするサロンは平成30年度からは宇治市共同募金委員会が募集・審査・助成を行っている。

新規立ち上げを検討する地域住民に対し、サロン運営経験者との情報交換の場を提供し、サロン活動を広げるとともに、既存のサロンに対しても情報提供や研修会の開催などの支援を行った。

サロンの登録の推移 (単位:件)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
登録のみのサロン	8	8	15	9	8
助成金申請サロン	102	96	88	81	76
合計	110	104	103	90	84

② サロン研修会の開催

令和5年度は、サロン運営者が今後も活動を続けるためのモチベーションアップを目的として実施した。サロン活動に参加することで社会や人とのつながりができ、フレイル予防にも効果があることを改めて伝える機会となった。(介護予防普及啓発事業「地域参加型B型リハビリ」事業の研修会と合同で実施)

(単位:人)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
参加者	53	19	34	37	18

※ 呼びかけ先は一般市民へも広げて実施。

③ サロン活動者懇談会「Salon for salon」の実施

市内のふれあいサロンのネットワークづくりを目的に、ふれあいサロン活動者同士が主体的に日頃の思いや悩み、課題等を共有できる場の一つとして、趣旨に賛同したサロン活動者による懇談会を実施した。懇談会の名称「Salon for salon」は、令和4年8月に参加者で決定した。

サロンのためのサロン

Salon for salon (開催日、参加者数及び参加サロン数)

- ①令和5年4月18日(火)11名(8サロン) ②令和5年6月20日(火)9名(7サロン)
 ③令和5年8月22日(火)9名(6サロン) ④令和5年10月24日(火)7名(5サロン)
 ⑤令和5年12月12日(火)8名(7サロン) ⑥令和6年2月27日(火)8名(7サロン)

④ オンラインサロンの開催

コロナ禍を機に、一同に集まらなくても、気軽にふれあいサロンや身近な関心事の情報交換ができるオンラインによる交流の機会を設けた。月1回の開催、各回4～5名の参加があった。

⑤ サロン相談会～報告書編～

報告書の記入方法や活動についての相談会を行った。年2回実施し、合計12サロンの参加があった。今後もサロン活動を続けようという気持ちにつなげられるよう、今後も相談会の実施を検討する。

(6) 宇治ボランティア活動センターへの支援

宇治ボランティア活動センターでは、毎月役員会と運営委員会を定例開催しており、当会事務局からも職員が1名、運営委員として運営に参加し、運営委員間の連絡調整等に協力した。

① 事業内容

- 情報紙「パートナー」発行(奇数月)
- ボランティアマッチングサロンの実施
- 「はじめよう!セカンドライフ」の実施
- 健康長寿サポーターステップアップ講座への協力
- 運営委員研修の実施
- バリアフリー上映会
- ボランティアフェスティバル&おもいの駅伝
- 宇治市災害ボランティアセンターへの参画
- 生活応援隊活動の実施
- 京都文教大学ボランティア演習による学生受入れ(春・秋)
- 団体・個人登録者会館清掃交流
- 赤い羽根共同募金への協力
- 宇治市障害者スポーツ大会への協力
- 令和5年度健康長寿フェス2023への出展
- SDGs清掃活動ボランティアの実施

② ボランティア相談件数の推移

(単位:件)

年度	元	2	3	4	5
相談件数	189	227	178	235	249

※ ボランティア活動センター担当職員によるボランティア相談件数をカウント

(7) 宇治市災害ボランティアセンターの運営(平常時)

災害に対して円滑な災害ボランティア活動を行い復旧に努めると共に平常時における防災、減災、災害ボランティア活動への意識向上を推進に努めている。構成団体数:75(正会員)。

事業内容

- 総会
- 運営委員会(年3回)の開催
- 広報、普及啓発活動:随時

- 研修会 1 回
- 防災訓練への参加 2 回
- 宇治市防災シンポジウムへの参加 1 回
- 災害義援金活動（街頭）1 回
- 京都府災害ボランティアセンターへの協力：年 10 回
- 被災地支援活動への参加 4 回

(8) 在宅高齢者介護者リフレッシュ事業の実施

宇治市の委託を受けて実施。要介護や要支援の認定を受けている人を在宅で介護している家族等を対象とし、介護者のリフレッシュを目的とした当事者交流事業を開催した。交流会およびレクリエーションを企画し、実施した。

参加者数

(単位：人)

年度 区分	元	2	3	4	5
介護者交流 1	(レ) 12	(レ) 未実施	(交) 中止 (交) 中止	(交) 9	(レ) 27
介護者交流 2	(レ) 13	(交) 中止	(交) 中止	(交) 午前 14 午後 6	(交) 9
介護者交流 3	(交) 6	(レ) 11	(レ) 20	(レ) 7	(レ) 22
介護者交流 4	(レ) 10	(交) 6	(レ) 10	(レ) 18	(レ) 25
介護者交流 5	(レ) 9	(レ) 10	(交) 12	(交) 17	(交) 17
介護者交流 6	(交) 6	(交) 7	(交) 8	(レ) 6	(交) 17

※ (交) は交流会、(レ) はレクリエーション

※ 令和 3 年度の介護者交流 1 は、2 回実施（1 回目は緊急事態宣言を受け中止、2 回目は応募者が規程を下回り中止）

※ 令和 4 年度の介護者交流 2 は、同日 2 回開催

(9) 生活支援体制整備事業の実施

宇治市の委託を受けて実施。地域における高齢者の生活支援体制の整備を推進するために、生活支援コーディネーター業務及び協議体（「宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議」）を設置。事業実施に当たっては、第 1 層協議体戦略会議、生活支援体制整備事業事務局会議において宇治市、宇治市福祉サービス公社と情報共有と協議を行っている。

① 生活支援コーディネーターの設置

第 1 層 1 名（他に福祉サービス公社 3 名）

第 2 層 3 名（第 1 層と兼務）

② 会議

事務局会議 5 回、戦略会議 2 回

③ 宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議（開催日、場所、参加者（関係者含む））

第 1 層：ア 令和 5 年 8 月 4 日（金） 宇治市総合福祉会館 47 名

イ 令和 6 年 3 月 5 日（火） 宇治市総合福祉会館 37 名

第 2 層：各地域での懇談会の実施

紫ヶ丘地域（12 回）、グリーンタウン槇島地域（10 回）、木幡北島地域（12 回）、木幡地域（9 回）、朝日プラザ宇治マンション（3 回）

④ その他

小地域包括ケア会議への参加：6 回

自立支援型ケア会議への参加：9 回

勉強会の実施：8 回

研修会への参加：21回
 大山崎町社会福祉協議会へ講師派遣：1回

(10) 一般介護予防事業 介護予防普及啓発事業「B型リハビリ教室」の実施

宇治市からの委託事業。地域の住民同士が共に、体操、レクリエーションのプログラムを通じて、介護予防を進めるための教室を開催している。より多くの市民の方に利用していただき、また、活動を支えるボランティアとして参加いただけるように、啓発活動を行った。

① 開催回数と利用者・ボランティア延数

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
開催回数 (回)	742	609	576	792	802
利用者延人数 (人)	5,259	3,163	2,931	3,921	4,311
ボランティア延人数 (人)	8,774	5,426	5,411	7,766	7,629

② ボランティア研修会

(単位：人)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
1回目 参加者数	57	26	34	28	33
2回目 参加者数	53	15	24	29	16
3回目 参加者数	35	24	21	15	37
4回目 参加者数	53	19	29	13	36
5回目 参加者数	—	—	—	37	18
6回目 参加者数	—	—	—	37	—

(11) 宇治福祉まつり検討委員会の開催

模擬店等の開設届等の手続きなどからも従来通りのあり方を目指すことが難しくなっており、催しの形態変更の継続協議が必要となっている。

宇治福祉まつり参加団体数

参加団体 (団体)	区分 \ 年度	元	2	3	4	5
	福祉の店	37	/	/	/	/
ステージ発表	13					
展示コーナー	26					
相談コーナー	22					
子ども広場	6					
スタンプラリー	8					
オープニング※	21					

※ オープニングは 30 秒アピールを行った団体数をカウント。

(12) 京都文教大学との連携によるボランティア活動の促進 (京都文教大学委託事業)

平成 23 年度より京都文教大学から「ボランティア演習」科目の業務委託を受け、大学生のボランティア活動のきっかけづくりを始めた。

春学期、秋学期ともに市内各所の施設・団体等の協力を得ながら実習受入れの調整を行った。

履修生の推移

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
春学期（人）	12	中止	17	15	18
秋学期（人）	3	5	9	18	20
合計	15	5	26	33	38

(13) 中学生と赤ちゃんのふれあい交流事業

おむね首が座った頃からよちよち歩きが始まる頃までの赤ちゃんとお母さんが「赤ちゃんボランティア」として中学校を訪れ、3年生と交流をはかる事業。中学生の質問に答えながら命の大切さについて伝えていると同時に親子の社会参加の機会にもつながっている。本会ではボランティア募集、調整、当日サポート、実施後のフォローを行っている（年により、インフルエンザの流行等で中止になっている学校あり）。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、3年ぶりの開催となった。また、インターネットやインスタグラムのDM等、複数のボランティア申込の方法を取り入れた。

① 「赤ちゃんボランティア」協力者数

年度	元	2	3	4	5
組数（組）	313	中止	中止	中止	253
実施校（校）	東宇治、宇治、 檜島、黄檗 計4校	中止	中止	中止	東宇治、宇治、 黄檗 計3校

※ 延べ赤ちゃんボランティア数

(14) 宇治福祉のつどいの開催

地域福祉活動に長年ご尽力いただいた個人や団体に対して、当会会長表彰及び感謝状を贈呈した。

令和5年度は、表彰式典と講演会の2部制で、令和5年11月14日（火）にパルティール京都にて開催した。地域福祉活動に長年ご尽力いただいた個人や団体に対して、市内の福祉関係者が集い、その功績を称える場となった。第2部では、「源氏物語・宇治十帖から読む『物語の地形』』というテーマで、地域共生社会の実現に向けた視点を含めた講演会を行った。

参加者数

(単位：人)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
来賓	38	0	7	8	13
被表彰者	48	69	48	51	46
一般来場者・スタッフ	206	0	44	130	133
合計	292	69	99	189	238

※ 被表彰者数は当日欠席者含む。来賓・一般来場者・スタッフは当日の実参加者数。

(15) 子育て世代への働きかけと地域福祉活動へのきっかけづくり

NPO 法人と連携して、1歳になるまでの子どもを持つ親同士の仲間づくりや情報交換の場として、「赤ちゃんサロン」・「赤ちゃんパーク」をそれぞれ年10回、「赤ちゃん広場」を年9回実施した。参加者の気持ちをほぐすプログラムの後、交流を促すフリートークの時間を設けるほか、小グループでのおしゃべりタイムを設けるなど、参加者が交流しやすくなるような工夫をしている。

また、子育て中の親の悩みに応じた当事者同士の出会い、相談の場として「おしゃべりキャッチボール」をテーマごと（①子どもの発達に不安や悩みのある親 ②多胎児を育てる親）に年3～4回実施した。

① 年間延べ参加者数の推移 (単位：延べ組数)

区分	年度	元	2	3	4	5
赤ちゃんサロン (妊婦～生後 4 か月)		70	47	42	45	51
赤ちゃん広場 (生後 5 か月～8 か月)		104	88	49	88	84
赤ちゃんパーク (生後 9 か月～12 か月)		95	97	53	85	84
おしゃべりキャッチボール (人)		73	64	86	46	73

- ② 子育てサークルなどへの情報提供および広報
総合福祉会館に常設している子育て情報コーナーで各種情報の発信の場を提供した。

(16) 宇治市老人福祉センターサークル協議会への支援

宇治市老人福祉センターサークル協議会 (USK) の運営支援を通じ、高齢者の生きがいつくりと社会参加の機会の提供を行った。

① 事業内容

- 令和 5 年 9 月 20 日 シルバーウエルネス舞台発表大会 (宇治市文化センター小ホール)
- 令和 5 年 9 月 30 日、10 月 1 日 シルバーウエルネス展示発表大会 (宇治市総合福祉会館)
- クリーン運動 宇治市総合福祉会館内及び会館前広場の清掃
- 管外研修 (歴史健康ウォーク)

② 老人福祉センターサークル数の推移

区分	年度	元	2	3	4	5
サークル数 (サークル)		20	20	17	17	17
登録人数 (人)		392	384	331	285	267

(17) 身体障害者デイサービス事業 (作業型) の実施

身体に障がいがある方の自立と社会参加促進を目指し、地域生活支援事業として卓球バレーや手づくりなど 7 教室を開催した。

事業実施状況

区分	年度	元	2	3	4	5
延利用者数 (人)		516	427	355	524	414
教室回数 (回)		112	90	79	118	102

(18) 身体障害者移動支援事業の実施

車いす利用者の外出支援を目的に、移動支援サービス事業としてガイドヘルパーの派遣を行った。令和 2 年度、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止による規制や自粛により、必要最小限の支援にとどまった。令和 4 年度では、規制や自粛が緩和され外出の機会が増えたことに反し、コロナ禍での体力低下や体調悪化が改善されない高齢の利用者への外出支援は減少し、利用者も減少した。

平成 18 年 10 月の開所以来、宇治市内の車いす利用者を対象にガイドヘルパーの派遣を行い、多くの方に利用いただいたが、近年の利用者の減少や当事業所の体制の変化により事業継続が困難になり、令和 4 年度末で閉所した。

事業実施状況

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
ヘルパー登録者数(人)	8	8	6	4	
利用登録者数(人)	11	10	11	6	
調整件数(件)	190	120	101	46	
派遣実施数(件)	165	103	81	38	

※ ヘルパー登録者数は、平成30年度から実際に稼働したヘルパー数に変更
令和4年度末で閉所のため事業廃止

(19) 福祉活動拠点の整備と活用

令和2年度に丸紅基金社会福祉助成金の交付を受け改修を行い、令和3年8月31日より「地域福祉活動拠点（コミュニティスペース）」として運用を始めた。

原則、年末年始祝日を除く平日の9時から17時（夜間：要相談）を利用時間とし、会議・ワーキング・イベント・研修・情報発信・交流・相談などの目的での貸室を行っている。利用料は、午前・午後・夜間の区分ごとに1回500円。当事者家族会の定例会議や相談、仕事の作業スペースのほか、大学生など若者の企画交流の場などにも役立てられている。

事業の目的

II. 各種相談から生活課題を把握し解決を図ります

事業の概要および現況

(1) 各種相談事業の実施

市民のさまざまな困りごと悩みごとを、気軽に持ち込める相談窓口として、「ふれあい福祉センター」を設置し、一人ひとりが自分の悩みを解決できるよう、各種相談事業を実施した。

ふれあい福祉センター相談実施状況と推移

(単位：件)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
福祉なんでも相談	258	157	275	326	314
法律相談	363	332	390	361	377
登記相談	105	97	106	130	141
年金・社会保険相談	7	6	9	5	7
多重債務相談	17	13	13	19	17
成年後見相談	11	3	13	14	11
合計	761	608	806	855	867

(2) 各種資金貸付等の実施

① 生活福祉資金に関する貸付相談・資金貸付

生活福祉資金は、低所得世帯、高齢者世帯、障がい者世帯に対して、暮らしていく上で一時的に資金が必要になった場合、当該世帯の経済的自立と生活意欲の助長促進を図り、安定した生活が営めるようにすることを目的に低利で資金を貸し付けた。

(単位：件 [千円])

区分	年度	元	2	3	4	5
	総合支援資金	生活支援費	0	1 [420]	0	0
	生活支援費 (増額)	0	0	0	0	0
	一時生活再建費	0	0	0	0	0
	住宅入居費	0	0	0	0	0
	臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	0
福祉資金	生業	10 [1,845]	2 [260]	13 [4,413]	6 [1,573]	16 [2,504]
	技能習得	—				
	療養・介護等	—				
	住宅	—				
	一般福祉	—				
	緊急小口	3 [300]	3 [300]	0	5 [431]	5 [500]
教育支援資金	教育支援	45 [15,601]	24 [8,932]	42 [16,005]	37 [14,021]	29 [11,032]
	就学支度	38 [14,357]	22 [9,114]	39 [15,357]	37 [14,704]	29 [9,939]
	不動産担保型 生活支援資金	0	0	0	0	0
	合計	96 [32,103]	52 [19,026]	94 [35,775]	85 [30,729]	79 [23,975]

② 生活福祉資金特例貸付に関する貸付相談・資金貸付

令和2年3月25日から始まった新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付は、令和4年9月末で受付終了となり、令和5年1月より返済が始まる借受人から償還免除や償還猶予申請の相談が多く寄せられた。特例貸付終了後も生活資金の借入を希望する相談は多く、市の自立相談支援機関と連携を図った。

(単位：件 [千円])

資金種別	年度	元	2※1	3※2	4	5
緊急小口資金			1,381 [271,900]	554 [109,360]	120 [23,650]	
総合支援資金			1,008 [553,760]	581 [322,390]	105 [56,850]	
総合支援資金 (延長)			751 [411,650]	203 [114,550]	0	
総合支援資金 (再貸付)			231 [128,250]	985 [545,350]	1 [600]	
合計			3,371 [1,365,560]	2,323 [1,091,650]	226 [81,100]	

※1,2 令和2,3年度の実績報告の訂正

過去実績との差異は、京都府社会福祉協議会から送付された決定通知書の重複や漏れに起因する入力誤り、決定後の送金停止事案、転出入による申請方法・窓口が異なったことによる集計違いが主な要因。令和5年3月28日より「京都府市町村連携システム」の運用を開始し、市町村で貸付決定件数を閲覧できるようになり、検算が可能となり訂正。

令和4年9月末で受付を終了した。

③ ぐらしの資金に関する貸付相談・資金貸付

※ 宇治市からの受託事業。詳細は、「ぐらしの資金貸付事業 (委託) (地域福祉課)」を参照。

ア 資金貸付状況 (単位：件 [千円])

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
夏期貸付件数 (貸付金額)	6 [600]	14 [1,400]	15 [1,500]	15 [1,500]	13 [1,300]
冬期貸付件数 (貸付金額)	9 [880]	23 [2,250]	13 [1,300]	25 [2,450]	11 [1,100]
合計貸付件数 (貸付金額)	15 [1,480]	37 [3,650]	28 [2,800]	40 [3,950]	24 [2,400]

イ 資金貸付事由 (単位：件)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
生活費	13	35	24	34	12
医療費	2	1	3	4	5
借金返済	0	0	0	0	0
失業	0	0	1	1	3
交通事故	0	0	0	1	0
養育	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	0	4

④ 物価高騰対策緊急生活支援事業の実施

物価高騰や長期化するコロナ禍の影響による生活困窮世帯に対して、食料・生活必需品等物資を希望者 125 件へ配布した。その機会を通じて、生活困窮者の状況を把握し、必要な支援につなげることを目的として、生活実態アンケートを実施したところ、物資を届けた世帯の約 8 割はコロナ前の生活に戻れず、依然として生活苦を訴えていた。アンケートの回答に基づき、必要な情報を提供や手続きの支援を行い、緊急度に応じて訪問支援を行った。

⑤ 温ったか京都・寄り添いワーカー

新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活福祉資金の特例貸付は貸付終了し、償還が開始している。償還状況については、計画通りが 13～16%、償還猶予・滞納は 35～39%、免除は 44～51%。借受人から償還免除や償還猶予申請の相談が多く寄せられたほか、当会から個別架電によるアウトリーチを行い、生活状況の把握に努めた。特例貸付終了後も生活苦を訴える声は多く、関係機関と連携し、生活支援を行った。

(3) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）の実施

福祉サービスの利用方法や日常生活上の手続きの援助、金銭管理などをすることが一人では不安な高齢者・障がいのある方に、生活支援員が定期的に訪問し援助を行った。一方、体制の問題から、事業利用の相談があっても、実際の利用（契約）に至らず契約待ちとなった待機者が 3 月末で 35 名あった。

① 契約者数・終了・解約者数

(単位：人 カッコ内は生活保護受給者数)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
新規契約者数	12 (6)	23 (7)	22 (11)	10 (2)	11 (3)
終了・解約者数	9 (7)	9 (3)	13 (6)	12 (4)	12 (7)
年度末利用者実数	46 (17)	60 (20)	68 (25)	66 (20)	65 (19)

② 相談調整等の件数の推移

相談・連絡調整活動の実施状況

(単位：回)

	認知症 高齢者等	知的 障がい者等	精神 障がい者等	その他	合計
令和元年度	825	477	2,600	4	3,906
令和2年度	1,379	709	2,866	43	4,997
令和3年度	1,964	1,164	2,679	46	5,853
令和4年度	1,447	980	3,073	79	5,579
令和5年度	1,312	1,064	2,540	133	5,049

③ 支援員交流会の開催

生活支援員の研修と相互交流を図るための「お茶会」(交流会)は、令和5年度も中止とした。

④ 山城北中部広域社協合同講座の実施

山城北中部の7市町社協(宇治市・城陽市・久御山町・八幡市・京田辺市・井手町・宇治田原町)と京都府社協との協働にて、研修や講座等を行っている。

合同会議：令和5年6月7日(水)・7月19日(水)・8月24日(木)・10月3日(火)・
11月29日(水)・令和6年3月18日(月)

城陽市社会福祉協議会・京田辺市社会福祉協議会等

研修：令和6年2月6日(火)

井手町 山吹ふれあいホール

(4) 宇治市共同募金委員会の助成相談、団体への活動支援

当事者団体や、当事者の声、意見を聞き、課題解決のために活動をしている団体へ宇治市共同募金委員会と連携協働して支援をした。

共同募金配分事業

赤い羽根コラボ助成金

年度 区分	元	2	3	4	5
助成団体数(団体)	42	38	36	35	36
助成事業数(事業)	90	79	75	75	73
助成決定額(円)	3,448,000	2,229,050	2,558,830	2,515,000	2,949,000

※ 平成29年度まで宇治市社会福祉協議会が募集・審査・助成を行っていた。

(5) 地域つながり活動支援事業の実施

宇治市福祉未来基金を財源にした補助を受け、地域共生社会推進事業を実施した。当事者の声に寄り添うことを念頭に、ひきこもり当事者、当事者家族、支援団体との現状の聞き取りを行った。また、財政面の支援としては、①子どもの貧困、②ひきこもり、③地域福祉活動の担い手確保を対象とする事業に対して、11団体に計1,047,000円の助成金を交付した。

また、地域活動等に関心のある大学生のおしゃべりの場「yooSely rabbits(ゆーずりーらびっと)」を年間18回実施した。参加する学生に対して、ボランティア活動の参加やイベントの企画運営についてのサポート、情報提供等を行った。

(6) 学習支援事業 ～うじピヨンの学び舎～ の実施

平成29年度7月より、中学校1年生から3年生の宇治市が適当と認めた生徒を対象に、原則週2回の学習支援を実施した。主に大学生の学習支援員を募集し、実施している。

実施状況の推移

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
開催回数 (回)	95	92	84	108	109
生徒人数 (延べ数) (人)	712	653	824	947	918
学習支援員 (延べ数) (人)	327	319	363	542	474

(7) 一人親家庭の新入学児童や交通遺児に対するの激励金の給付

① 新入学児童への祝い金の贈呈

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
金額 (円)	65,000	85,000	45,000	45,000	85,000
人数 (人)	13	17	9	9	17

② 交通遺児への見舞金の贈呈

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
金額 (円)	0	0	0	0	0
人数 (人)	0	0	0	0	0

事業の目的

Ⅲ. 法人運営の強化と財源づくりの強化に努めます

事業の概要および現況

(1) 市社協の組織運営

法人を運営していくために、理事会、評議員会の他、正副会長会（年9回）、監査（年3回）、評議員選任・解任委員会（年1回）を適時開催した。

理事会・評議員会 開催状況 (単位：回)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
理事会	6	4	6	4	5
評議員会	3	3	5	2	3

(2) 会員募集の増強

法人の運営、事業の推進を図る財源確保のために会員募集を、学区福祉委員会、町内会・自治会の協力を得て行った。

会員（会費）等実績 (単位：円)

区分 \ 年度	元	2	3	4	5
住民会費	8,537,000	8,450,500	7,419,500	7,253,000	6,859,400
賛助会費	210,667	104,644	99,300	108,345	91,276

事業所会費	888,000	301,000	401,000	219,000	336,000
団体会費	544,600	399,908	455,700	421,610	403,325
施設会費	306,000	306,000	215,000	200,000	205,000
特別賛助会費	549,500	458,000	455,450	411,500	422,000
寄付金	1,422,592	1,225,064	1,425,170	1,350,153	1,298,801
合 計	12,458,359	11,245,116	10,471,120	9,963,608	9,615,802

(3) 宇治市共同募金委員会の運営と赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい募金運動への参画

宇治市共同募金委員会の事務局として、運営委員会（4回開催：オンライン併用）を開催し、募金運動について協議した。

街頭募金運動では、コロナ禍以降最多の57団体の参加があった。事務局として、民間こども園や保育園を通じての組立式募金箱による募金活動のサポートや、宇治市共同募金委員会オリジナルピンバッジの作成を通じて募金協力者の拡充に努めた。

また、集められた募金配分の透明性を図るために、配分内容を審査する審査委員会（2回）を開催した。

① 共同募金運動の取組み実績（内訳）（単位：円）

年度 区分	元	2	3	4	5
戸別募金	7,451,990	7,102,267	6,861,878	6,592,103	6,013,601
グループ募金	1,898,192	1,658,814	1,513,667	1,625,419	1,126,418
街頭募金	260,286	16,220	19,366	191,247	287,620
資材募金	731,000	736,000	642,500	636,000	607,000
学校募金	142,142	49,889	68,056	59,129	35,161
個人募金	122,014	116,173	58,626	180,423	196,915
イベント	—	—	—	—	236,211
その他	187,954	118,522	149,687	150,765	638,047
合 計	10,793,578	9,797,885	9,313,780	9,435,086	9,140,973

※ その他には、京都府共同募金会扱いの募金や繰越金を含む。

② 歳末たすけあい募金運動の取組み実績（内訳）（単位：円）

年度 区分	元	2	3	4	5
戸別募金	7,214,135	6,734,784	6,116,531	5,340,627	5,899,062
その他	194,328	120,800	574,035	609,980	123,266
合 計	7,408,463	6,855,584	6,690,566	5,950,607	6,022,328

③ 募金の配分

宇治市社会福祉協議会への配分（広報紙作成、子育て事業他）の他、赤い羽根コラボ助成、Hot！ふれあいサロン助成を通じて、福祉団体・サークル等の活動支援を行った。

(4) 1㎡でできる社会貢献（自動販売機設置事業）の推進

企業の社会貢献を進める観点から法人や事業所等のご理解を得ながら、飲料用自動販売機の設置を進め、その収益を地域福祉活動・ボランティア活動の拡充に活用した。

年度	元	2	3	4	5
設置台数（単位：台）	20	20	20	19	18
収益実績額（単位：円）	2,224,797	2,175,749	1,997,787	1,942,676	1,753,992

- (5) 寄付金の受け入れと「ふれあい基金」「ボランティア基金」「災害時支援活動準備金」の適正運用
皆さんからの寄付の受入れ及び「ふれあい基金」「ボランティア基金」の運用による財源確保に努めた。

① ふれあい基金 (単位：円)

年度 区分	元	2	3	4	5
寄附件数（件）	15	28	10	17	14
寄附金額	494,498	510,243	639,862	1,399,595	1,459,777
基金積立額	1,993,936	1,609,312	1,739,862	2,499,595	0
基金取り崩し額	0	0	0	0	0
年度末基金保有額	198,968,929	200,578,241	202,318,103	204,817,698	204,817,698
運用益	703,807	561,506	597,280	597,280	597,280

※ 基金保有額のうち、50,000,000円は宇治市からの補助。

② ボランティア基金 (単位：円)

年度 区分	元	2	3	4	5
年度末基金保有額	121,788,928	121,788,928	121,788,928	121,788,928	121,788,928
運用益	274,670	266,814	272,304	264,637	928,919

※ 基金保有額のうち、50,000,000円は宇治市からの補助。

(6) 多角的な広報の展開

多角的な広報活動として下記の通り取り組んだ。

- ① SNS (Twitter、facebook 等) の活用
- ② ホームページの運用
- ③ 洛タイ新報との連携による新聞を活用した広報「月イチ・うじピヨンの^{まるまる}な話」の掲載
- ④ 広報紙「社協だより」の発行(年3回発行)

(7) 宇治市総合福祉会館の管理運営(指定管理)

宇治市総合福祉会館(身体障害者福祉センター、老人福祉センター、福祉センター)は、市の地域福祉推進の拠点施設として、多くの市民や団体に利用されている。(利用状況は別掲)

組織・機構

会 員	住民会員	(会費 1口 : 500円)
	賛助会員	(同上 1口 : 500円)
	特別賛助会員	(同上 1口 : 10,000円)
	事業所会員	(会費 1口 : 3,000円)
	団体会員	(同上 1口 : 3,000円)
	施設会員	(同上 1口 : 5,000円)

評 議 員	1号 (住民代表機関・団体)	14名
	2号 (福祉専門機関・団体)	8名
	3号 (当事者団体)	8名
	4号 (関連分野機関・団体)	6名
	38名 5号 (知識経験者)	2名

京都府共同募金会
宇治市共同募金委員会
会長 宇治市長

理 事 15名	会長	1名
	副会長	3名
	常務理事	1名
	理事	10名

監事 2名

事務局

総務係

業務係